東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2005 年 10 月 14 日

ザカート

親愛なるムスリムの皆様。イスラームの教えは、人々をあらゆる面から清めるという目標を持っています。教えの基本事項の一つであるザカート、そしてラマダーン月に支払う必要のあるフィトルは、財産に関わるイバーダとして、アッラーのご承認を得るため、また私たちの財産にある貧者の権利を清算し、罪から清められるために行なわれます。この事実に関して、クルアーンは、「かれらの財産から施しを受け取らせるのは、あなたが、かれらをそれで清めて罪滅しをさせ、またかれらのために祈るためである。」（悔悟章第１０３節）と述べています。また預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は「水が火を消すように、サダカも罪を消す」と語られておられます。

ムスリムの皆様。ザカートというイバーダは、人々の間の愛情、兄弟としての一体感、親密さをもたらすものです。金惜しみ、妬みといった感情が消え、物惜しみせず、良いことを行おうという人が増えるようになります。これは、与える人にとっても、受け取る人にとっても価値のあることです。与える人にとっての利益はあの世におけるもので、受け取る人にとっての利益はこの世におけるものです。

親愛なるムスリムの皆様。ザカート、サダカ、そして各種の援助を実行する際には、注意しなければならない決まりがあります。特にザカートは、相手を傷つけず、人の名誉に配慮した形で与えられなければなりません。見せかけを目的としたり、貧者の名誉を傷つけるような形で行なわれる援助は善行とはされず、無益なものとなってしまうことに、気をつけなければなりません。アッラーは、クルアーンで、「アッラーの道のために、自分の財産を施し、その後かれらの施した相手に負担侮辱の念を起こさせず、また損わない者、これらの者に対する報奨は、主の御許にある。かれらには、恐れもなく憂いもないであろう。親切な言葉と寛容とは、侮辱を伴う施しものに優る。アッラーは富有にして慈悲深くあられる。」（雌牛章第２６２~２６３節）とおっしゃられているのです。

皆さん。注意するべきもうひとつの点は、ザカートを、財産の良い部分から与えるということです。「あなたがたは愛するものを（施しに）使わない限り、信仰を全うし得ないであろう。あなたがたが（施しに）使うどんなものでも、アッラーは必ず御存知である」（イムラーン家章第９２節）聖アーダムの二人の息子ハービルとカービルが、犠牲を屠りました。カビルが屠った動物は、所有する中で最もやせた、価値のないものでした。そしてそのために、この犠牲は承認されなかったのです。アッラーは、「アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど１粒が７穂を付け、１穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。」（雌牛章第２６１節）とおおせられました。

ザカートを支払わないことが大きな過ちであることも、再認識しておきましょう。本日のフトバを、次の章句で締めくくりたいと思います。「あなたがた信仰する者たちよ、律法学者や修道士の多くは偽って人びとの財産を貪り、（かれらを）アッラーの道から妨げている。また金や銀を蓄えて、それをアッラーの道のために施さない者もいる。かれらに痛ましい懲罰を告げてやれ。その日、それら（の金銀）は地獄の火で熱せられて、かれらの額やわき腹や背に、焼印が押されるであろう。『これはあなたがたが自分の魂のために、蓄積したものである。だからあなたがたが蓄積したものを味わえ。』」（悔悟章第３４~３５節）